



児童の走運動及び投運動の能力向上を目的とした運動評価指標とその指導プログラムの開発

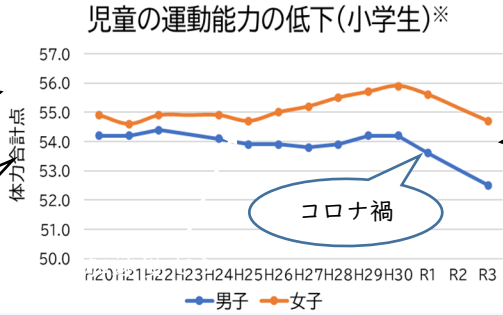
関西学院大学 人間福祉学部 人間科学科 准教授 浦田 達也

子供達の運動能力低下という社会的課題の解決に向けて！



運動する子としない子の格差が広がる
(運動能力の二極化)

筋肉量不足による運動機能疾患の低年齢化



運動嫌いに起因する 主体的な行動の不足が、子供の「自己肯定感」の育成に悪影響を及ぼす

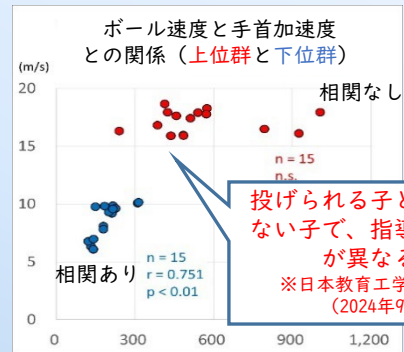
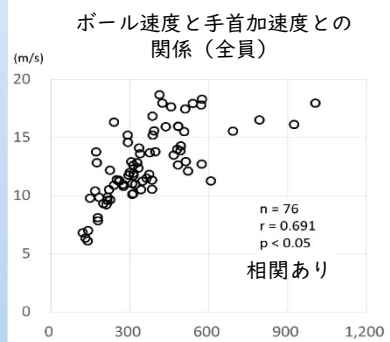
※スポーツ庁 令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果 (概要)

- ・子供の運動能力低下が課題となっている一方、小学校や幼稚園では、適切な運動指導ができる教員数が減少。
- ・子供向け体操教室に通わせたいけど、良い指導＝高価となる傾向があり、保護者にとって金銭的な課題も。
- ・専門家が構築したによる運動指導方法は、殆どがアスリートを対象としたものであり、子供向けでないどころか、運動が苦手な子供の指導には全く適していません。

子供達の運動能力を適切に評価し、それぞれの能力や特徴に合わせた信頼性の高い運動指導プログラムを廉価に提供することで、日本の子供達の運動能力の底上げを目指します。

小学校・幼稚園と連携し、**1000人規模**のデータの収集・解析・検証を行うことにより、信頼度の高い運動評価指標と運動プログラムを構築します。誰でも理解しやすい運動評価指標によって、専門家でなくても指導が可能となります。また、運動ができる・できないに関係なく、子供それぞれの特徴に合わせた指導方法を提供することができます。ボールを投げられる子と投げられない子では、そもそも指導するポイントが違うのです。

投運動映像データと加速度センサの解析結果



投げられる子と投げられない子で、指導ポイントが異なる！
※日本教育工学会で発表 (2024年9月)

私の提供する評価指標と指導法は、専門家でも、容易に理解し、活用できることが特徴です。指導者不足の中、課題解決の一助になると信じています。(浦田)



T. Urata

現在までに、投運動に関する約**750**名分のデータを収集



評価指標と指導法

	LEVEL1	LEVEL2	LEVEL3
特徴	・1m未満 ・最初から利き腕が前 ・○○○○ ・○○○○	・1m～5m ・利き腕は後ろから前に動く(振れている) ・骨盤の回転無	・5m以上 ・利き腕は後ろから前に動く(振れている) ・骨盤の回転有
指導法	上半身の回転を伴い、腕を振るよう に指導	ステップは肩幅くらいで骨盤を回転させて体幹を回転させる ように指導	ステップ幅を更に大きくさせて体重移動させ、骨盤・体幹を回転させる ように指導
達成基準	利き腕が投球方向と反対方向に一度動いてから投げている。	利き腕側足から非利き腕側足に体重移動をさせながら投げている。	大きなステップによる体重移動と体幹部の回転を伴って投げている。